請願第 5 号

長崎市平和公園スポーツ施設の再配置に関し慎重丁寧な調査検討を求める請願書

2022（令和４）年11月29日

長崎市議会議長
深堀　義昭様

請願人　〒850―0001　長崎市三原１－31－24
長崎市営松山平和運動公園を守る会
会長・佐藤　悟
[redacted]

議事調査課
令和
－4.11.29
受
294

紹介議員

長崎市議会議員

~~中村俊介~~ 土屋美紀

浅田五郎

大石ふみき

林 広文

長崎市平和公園スポーツ施設の再配置に関し慎重丁寧な調査検討を求める請願

1　請願の趣旨

県が進める高規格道路「長崎南北幹線道路」の建設計画に伴い具体化した市平和公園西地区の各スポーツ施設（県営野球場と市営ラグビー・サッカー場を除く）「再配置」問題で、市は2022（令和４）年８月25日の市平和公園再整備基本計画検討委員会（委員長＝西岡誠治・長崎県立大学教授）に「施設再配置の基本的考え方（案）」を提示しました。内容は、市民総合プールを「陸上競技場」の位置に移して新築、「陸上競技場」の400mトラックをなくすと同時に600m外周路と芝生広場を縮小する方向性を示す一方、400mトラックの再配置先は「今後別途検討する」と事実上先送りするものです。

長崎南北幹線道路の目的は県都と県北の時間短縮や緊急時災害時の活用などとなっており、私たちは今これに反対して行動しているわけではありません。ただ、市民総合プールの位置にインターチェンジを設けた場合の交通渋滞がどうなるかについては周辺住民を中心に不安の声が消えない一方、県の調査・シミュレーション結果はまだ出ていません。そうした中でスポーツ施設の「再配置」の検討が進められているわけですが、交通至便な地にあるトラッと外周路は中高校生を中心に部活動の拠点として長年利用され続けているのをはじめ、実業団や市民ランナーなども早朝から夜間まで活用し、陸上競技のレベルアップと底辺拡大に貢献しています。東京五輪にも出場した5000mの日本記録保持者、廣中瑠梨佳選手（長崎商高―日本郵政グループ）、アジア大会マラソン金メダルの井上大仁選手（ＭＨＰＳ）ら幾多の名選手もここで育ち羽ばたきました。

また、外周路や芝生広場はウオーキングやリハビリ、ラジオ体操、レクリエーションなど、男女幅広い年齢層に極めて多目的に利用されており、「松山陸上競技場」は平和公園内のスポーツ施設の中でも最も多くの市民（年間推計約33万人）に親しまれているところです。いわば、「松山陸上競技場」は市と市民が長年かけて共に築き上げてきた、全国に誇れる開放的な「宝の空間」であり、少子高齢化の中で、市民の健康増進、世代間交流、定住促進などにも寄与しているかけがえのない施設です。

さらに、平和公園西地区スポーツゾーンの基本テーマである「スポーツを通じた平和発信」という意味でも、爆心地から至近距離にあった駒場の陸上競技場（旧三菱陸上競技場）が被爆前とほぼ同様の空間で「市営松山陸上競技場」としてよみがえり、市民に愛され利用され続けているのは特筆すべきことではないでしょうか。

陸上競技場について、1994（平成６）年の平和公園再整備基本計画は゛将来は多目的広場にする゛との方向性を示しつつ、トラック再整備の着手時期等について゛今後の施設の利用状況等の推移を見ながら検討する゛とし、1998（同10）年の平和公園陸上競技場利用懇話会の「まとめ」も、「将来的なトラックの取扱いについては、今後の陸上競技場地区全体の再整備を行っていくなかで検討すべきものであるとし、将来の判断に委ねる」となっています。これらに照らしても、この間30年近くにわたって陸上競技場が幅広い市民に愛され「多目的」に利用され続けてきた事実は、今回の再配置の検討に当たって重視されなければならないと思います。

2　請願項目

市平和公園西地区スポーツ施設の再配置・再整備について、市は第三者機関の調査審議を経て市の成案を検討・決定するに当たって、利用者市民の声にしっかり耳を傾け、可能な限りそれを生かされるよう強く求めます。仮にも一部のスポーツ施設の利用者だけが「見切り発車」によって解決から取り残されたり、不利益を大きく被ったりすることがないよう、拙速に陥ることなく、慎重丁寧に調査検討されますよう請願いたします。